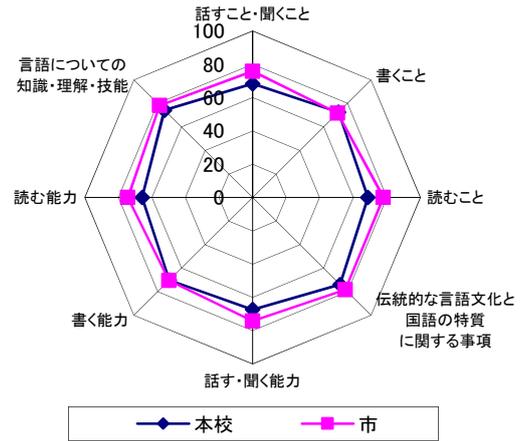


# 宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.4	75.9	71.7
	書くこと	72.6	71.8	73.2
	読むこと	68.8	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.9	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	67.3	74.2	70.8
	書く能力	70.2	70.4	71.0
	読む能力	65.8	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	74.1	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

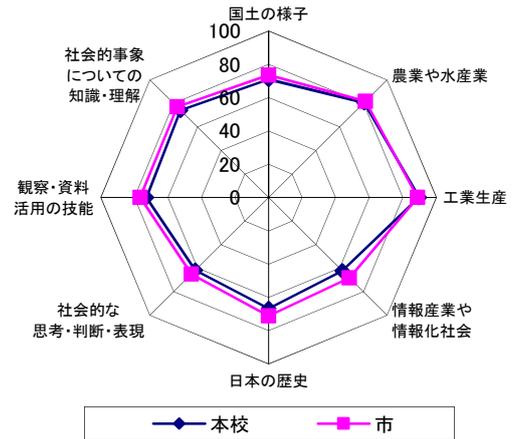
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を7.5ポイント下回っている。特に司会者の役割を理解して、計画的に話し合う場面では、市の正答率47.7%に比べて正答率31.6%で16.1ポイント低い。	話し合い活動を授業の中に意図的に設け、司会者の役割を体験的に理解させていく。また、読書活動を推奨し、筆者の考えや物事の言い回しに触れさせていく。
書くこと	市の平均正答率をやや上回っている。特にグラフから読み取った事実をもとに、自分の意見を書く問では、本校の正答率は91.8%で市の79.9%を11.9ポイント上回っている。しかし、与えられた情報を読み取り、話し合いの内容をふまえて、安全マップに必要な情報を書き足す問では、正答率が32.7%で市の正答率43.5%と比べて10.8ポイント低い。	グラフを読み取り自分の考えを書く力はあるが、文章からの読み取りを苦手としており、必要な情報を収集するのが難しいことが伺える。今後は文章題を繰り返し演習する機会を設けていく。
読むこと	市の平均正答率を9.2ポイント下回っている。目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情を読み取る問題では、本校の正答率が市の正答率と比べて約15ポイント低い問題もあり、正確に読み取れていない実態が見られる。	問題演習の機会を設けていく。その際に、場面の描写や登場人物の心情の変化に着目させていくとともに接続詞などにも着目するよう注意を促して文章を正確に読み取らせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を4.3ポイント下回っている。文の中における主語を理解しているかを問う問題では、正答率が14.3%で、市の正答率50.1%と比較すると著しく低い。	主語、述語を問う問題演習を設けていく。また、文章を読むときに主語、述語に丸を付けるなどして視覚的に理解を深めるようにしていく。

# 宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	71.0	73.6	76.2
	農業や水産業	80.6	81.9	77.5
	工業生産	89.8	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	62.2	68.2	61.0
	日本の歴史	66.8	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	61.8	65.1	62.1
	観察・資料活用の技能	72.8	76.5	75.2
	社会的な事象についての知識・理解	74.2	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

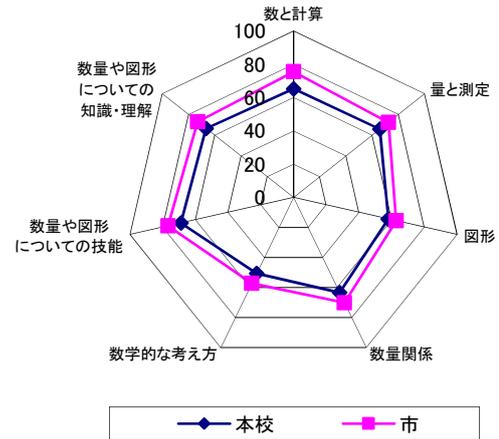
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	市の平均正答率を2.6ポイント下回っている。日本の地形の概要についての理解をもとに、資料を読み取る問いでは、市の正答率78.5%と比べ本校の正答率は63.3%で15.2ポイント低い。自然災害については市の正答率79.6%に対して本校の正答率は87.8%で8.2ポイント高く、関心の高さが伺える。	プリント学習を取り入れ、繰り返し練習をして定着を図っていく。日本の周辺の海洋名、日本の地形に関しては、地図帳を活用して視覚的に理解させながら復習していく。
農業や水産業	市の平均正答率を1.3ポイント下回っている。日本の食料生産では、資料の読み取りや稲作の品種改良の目的を問う設問では市の正答率よりも3ポイント程度高い。日本の主な食料生産物の分布に関係する資料や食料の外国からの輸入を示す資料の読み取りについては、6ポイント程度低い。	日本の農業や水産業に関しては、教科書だけでなく資料集やデジタル教科書を活用する機会を増やし、視覚的に理解を深めていく。また、繰り返し演習をして定着を図っていく。
工業生産	市の平均正答率を0.9ポイント上回っている。工業生産に従事している人々による環境保全への取り組みについて、資料を読み取る設問では市の正答率よりも2.2ポイント高い。様々な工業製品が国民生活を支えていることについて理解しているか問う設問では、市の正答率よりも0.4ポイント低い。	工業生産や工業製品に関しては、調べ学習の機会を取り入れ発表させることで意欲的に取り組めるようにする。また、教科書だけでなく資料集やデジタル教科書を活用する機会を増やし、視覚的に理解を深めていく。
情報産業や情報化社会	市の平均正答率を6.0ポイント下回っている。わたしたちの生活と情報に関する二つの設問については、どちらも市の正答率よりも6ポイント程度低い。	テレビや新聞を読むことを宿題などにして、身の回りにある情報に触れさせる機会を設けていく。また、携帯電話などを題材にして授業を構成していくことで興味を持って取り組めるようにする。
日本の歴史	市の平均正答率を4.3ポイント下回っている。農耕が始まったころの様子について理解しているかを問う設問では市の正答率よりも17.5ポイント低い。江戸幕府が行った、キリスト教禁止政策の背景について考える問題の正答率は42.9%で、市の正答率60.4%と比べると17.5ポイント低い。鎌倉時代、室町時代の元との戦いや水墨画などについての問いの正答率は市の正答率よりもやや高い。	プリント学習を取り入れ、繰り返し演習をして定着を図っていく。また、演習する際、その時代の背景や文化のなどに着目させ、復習していく。

# 宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.3	75.6	75.8
	量と測定	65.8	72.5	71.2
	図形	58.0	62.8	71.0
	数量関係	63.4	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	50.6	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	68.9	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	66.6	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

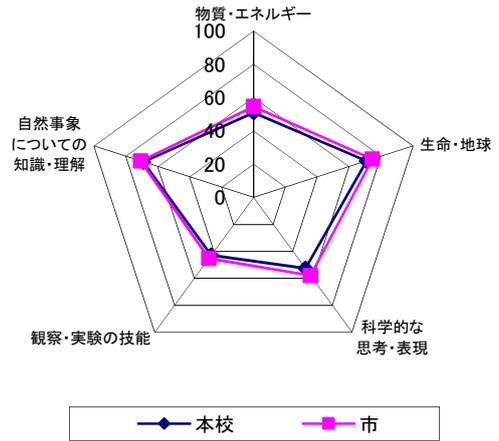
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	市の平均正答率を10.3ポイント下回っている。分数の計算や小数の計算は市の正答率よりも10ポイント程度低い。	計算ドリル等を活用し、繰り返し練習をして定着を図っていく。また、分数のかけ算わり算や小数の計算については逆数や小数点の移動を含めて復習をしていく。
量と測定	市の平均正答率を6.7ポイント下回っている。高さが図形の外にある三角形や台形の面積を求める問では、市の正答率よりも10ポイント程度低い。	面積を求める公式を確認するとともに、公式の意味を復習し理解を深める。また、図形の変形等の操作で公式に当てはめて考えられることなども扱っていく。
図形	市の平均正答率を4.8ポイント下回っている。七角形の内角の和を求める式を選ぶ問では、正答率が65.3%で市の正答率56%よりも9.3ポイント上回っている。点対称な図形を選ぶ問いや作図については、市の正答率と同レベルと考えられるが、線対称な図形を選ぶ問いや円の直径から円周を求める式を選ぶ問では、市の正答率よりも15ポイント程度低い。	作業を通して線対称な図形の性質に着目させ、理解を深めていく。また、円周を求める公式と面積を求める公式を混同している場合には、作業を通して視覚的に理解を深めるようにしていく。
数量関係	市の平均正答率を6.7ポイント下回っている。割合を使って、基準量にあたる割引き前の値段を求める式を選ぶ問の正答率は24.5%で市の正答率41.3%よりも16.8ポイント低い。また、比例の関係を、 $x$ と $y$ を使って式に表す問では79.6%で市の正答率89%よりも9.4ポイント低い。	割合を使って、基準量にあたる割引き前の値段を求める式を選ぶ問では、問題の意図が読み取れず状況を思い浮かべることが難い。買い物に行った時など、身近な例を思い起こさせ、問題文の状況が読み取れるようにしていく。また、比例の関係を、 $x$ と $y$ を使って式に表す問に対しては、二つの数量の関係に着目させ、繰り返し立式の練習に取り組んでいく。

# 宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	51.0	54.6	57.5
	生命・地球	70.9	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	52.6	58.0	59.6
	観察・実験の技能	42.9	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	69.1	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	市の平均正答率を3.6ポイント下回っている。ふりこのきまりでは、3つの設問共に12～13ポイント市の平均よりも低い。物の燃え方では、3つの設問共に市の正答率よりも5ポイント程度高い。	実験の観察や結果から規則性を見つけるなど、思考力を問われる設問では、現象と結果を結び付けて考えることが苦手で説明することが難しい面が見られる。また、物の燃え方では興味を持って実験に取り組み、体験的に理解していることが考えられる。以上のことから、興味を持って実験や観察に取り組めるような導入の工夫をし、実験後の考察を充実させるようにしていく。
生命・地球	市の平均正答率を3.6ポイント下回っている。魚のたんじょうではメダカのオスとメスの区別のしかたを理解しているかを問う設問の正答率100%で、市の正答率の97.6%を上回っている。月と太陽では、上弦の月が見られるときの太陽と月と地球の位置の関係を問う設問の正答率は65.3%で、市の正答率79.3%を14ポイント下回っている。	自然が豊富な環境で身近な生き物との関係が近く、生物には興味を持って取り組むことができる。一方、月や太陽を観察した経験が少ないことや、月と太陽の位置関係の規則性を見つけ出すことが難しい面がある。観察の機会を充実させ、その日の月の位置を確認させるようにするなど、適切なタイミングで指導し、興味を持って取り組めるようにする。